

○岩出市長賞（中学生）

「安心のうしろにあるもの」

岩出市立岩出中学校 三年 吉村 陽花瑠

私の住んでいる地域では最近、18歳までの医療費が無料になりました。初めて病院でお金を払わずに帰ったとき、「あれ？」と少し戸惑いました。今までは払うのが普通だったので、本当にびっくりしました。その少しあと、学校の授業で税金についてのビデオを見ました。税金は道路や学校、警察や消防、医療など、私たちの暮らしの中でいろいろな場面に、使われていることに気づき、「なるほど、医療費が無料になったのも、税金が使われているからなんだ」と気づきました。ある日、家でテレビを見ていたとき、たまたま選挙のニュースが流れ、立候補者のひとりが演説で「減税、減税！」とリズムに乗せてくり返しているのを見かけました。なんとなくそのフレーズは耳に残っていたのですが、私は「税金って減らせば減らすだけいいものなのかな？」と疑問に思いました。たしかに、税金が少なくなれば、物の値段が安くなったり、お金が使いやすくなったりするのもかもしれません。でも、そのぶん集まるお金が少なくなれば、医療費の助成や学校の環境、公共サービスが減ってしまうのではないかと私は思いました。

目先の得よりも、安心して暮らせる社会を守ることの方が大切なのではないかと、私は考えるようになりました。税金は今の便利さや安心だけでなく、これからの未来をつくるた

めの大切なお金でもあるのだと、思います。私はまだ、税金を払う立場ではありませんが、すでにその恩恵を受けている一人です。医療費が無料になったことで感じた安心や、整った学校の環境、安全な道を歩けることなどが、実は多くの人の協力で成り立っているのだと気づきました。また、税金が正しく使われることで、生活がしやすくなるだけでなく、困っている人も助けられます。自分一人のためでなく、みんなのために使われるからこそ、税金には意味があるのだと思います。将来、私が社会人になって税金を払うようになったときは、「なんのために払っているのか」を意識し、自分の税金が誰かの安心や幸せにつながっていると誇りを持てる大人になりたいです。そして、ただ「払う」だけでなく、選挙や日々のニュースにも関心を持ち、税金の使い道にも目を向けていきたいです。税金について学んだことで、私は社会とつながっている自分を感じることができました。この気づきを大切に、これからも自分にできることを考えながら社会の一員として、成長していきたいです。